



ロータリーは  
世界をつなぐ



# RI第2510地区 留萌ロータリークラブ

# 会報

2019 ▶ 2020  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ  
会長目標

クラブの活性化と行動は  
世界・地域に向けて

会長／福士 幸子 幹事／串橋 伸幸

## プログラム

- 本日  
会員卓話「外国人技能実習制度と受入れの仕組みについて」  
ワールドロード事業協同組合 理事 西谷 英樹 会員
- 次週予定  
「創立記念夜間例会」

No. 2860  
第30回 2月19日

出席報告

前  
例  
会

会員総数……………31名  
出免会員……………2名  
出免出席……………2名  
基準会員出席……………18名  
出席率……………58.06%

前  
々  
会

第27回 1月29日  
欠席会員……………12名  
内メイクアップ……………2名  
修正出席率……………67.74%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

## 🖋️ 会長報告 ……………

1. 2月15日に地区のチーム研修会が札幌市にて開催されます。これはガバナー補佐を対象に開催されますが、次年度の活動がいよいよ始まりました。

北海道留萌開発建設部 道路整備保全課  
保全専門官 千葉 学様

## 📁 幹事報告 ……………

- 羽幌ロータリークラブより、2月例会案内を受領しました。
- 羽幌、砂川ロータリークラブより、1月会報を受領しました。
- 2020～2021年度ロータリー手帳申込用紙容姿が届いています。ご希望の方は幹事まで。

## 🗨️ ニュニコBOX ……………

- 留萌開発建設部千葉様、本日はよろしくお願ひします。 福士会長
- 退院しました。 辻本エレクト
- 心温まる歓迎会ありがとうございました。 田中(美)会員
- にしんそば新聞に掲載されました。ありがとうございました。 青山会員
- 先週君が代がどこかへ行っていました。 燕会員

前 回	531,000円
今 回	12,000円
累 計	543,000円

### プログラム……………

(先週からの続き/山根会員卓話)

長時間停電発生の原因としては悪天候（暴風雨、暴風雪、洪水）により交通障害等になり復旧車輛が現地へ行けない場合。作業安全上復旧作業が出来ない等の原因があります。同時多発大規模停電による場合は停電状況、原因把握に時間がかかる場合が多々あり、設備被害が多数ある場合も復旧作業が時間がかかる原因となっている場合があります。配電線事故の発生件数は、留萌管内過去10年平均事故件数で年16件。平成24年から26年度は雷や暴風の影響で事故件数が多くなっています。配電線事故の発生状況では他の電力会社と比べると事故停電の回数は少なく、年間停電時間も他の電力会社に比べても大変少なくなっております。全道では、年間1000件以上の事故発生件数となっておりますが、今年度は災害も少なく600件で落ち着いています。留萌管内においては、今年度まだ1件も事故が起きていない状況で、多分初めての事だと思えます。

停電の情報の周知ですが、停電が発生するとお客様への停電情報の周知を行います。当社のホームページに停電情報のお知らせとして、現在・過去に停電していた地域を掲載。留萌管内専用のフリーダイヤル停電情報コールがあります(0120-06-0174)。必要に応じて広報車を出勤させ周知を行う場合もあります。

最後に2020年4月に北海道電力株式会社が2つに分社化されることをお話して、話を締めたいと思います。北海道電力株式会社はそのまま残りますが、新たに北海道電力ネットワーク株式会社という会社が出来ます。会社の中身は北海道電力株式会社は発電と販売で、北海道ネットワーク株式会社は送電・変電・配電で設備を守るものになります。発電設備の水力発電・火力発電・原子力発電・地熱発電の設備は全て北海道電力が引き継ぎます。送電・変電設備・泉町事務所は北電ネットワーク株式会社が引き継ぎ、配電設備の末広町事務所も北海道ネットワーク株式会社となります。留萌市には北海道

電力株式会社の事務所は無くなり、旭川支社が留萌を担当します。引っ越しで留萌に来て旭川の北海道電力株式会社にフリーダイヤルで電気の切り替えを頼むことになります。今現在、発電については、北海道電力、北海道ガス、王子製紙、風力・太陽光などの再エネ会社などが行っており、買い取り販売も北海道電力、北海道ガス、エーユーやコープさっぽろなどが行っています。皆様に平等に送る(託送)北海道ネットワーク株式会社をどうぞよろしくお願い致します。ご清聴ありがとうございました。

### 【冬の生活を支える道路の除雪、維持管理】

北海道留萌開発建設部 道路整備保全課

保全専門官 千葉 学様

本日はお招きいただき誠にありがとうございます。本日は冬の生活を支える道路の除雪、維持管理という事でお話をさせていただきます。

留萌開発建設部の管内道路維持管理は、北は天塩町から増毛町までの8市町村と高規格道路を管轄しております。国道40号線、国道231号線、国道232号線、国道233号線、国道239号線、深川留萌自動車道の合計総延長は282.7kmの道路を維持管理しています。道路の維持管理は大きく2つに分かれておりまして、道路を維持するという事と道路を補修するという項目に分かれます。維持は道路の異常等を日常的に確認し、交通に支障を及ぼさないように対応する事で、補修とは道路施設や構造物の健全性を確認し、機能を回復及び強化するという事になります。維持について中身は色々ありまして、巡視、清掃、除草、剪定、除雪、トンネルなどの設備の点検。補修については、橋梁やトンネルの点検を行って、補修の必要があれば補修を行うとか道路の舗装の補修とか、橋梁の耐震補強、法面斜面などの防災対策などが補修となります。

まずは道路維持では巡視活動が行われますが、道路巡視は2日に1回、3日に1回程度行われます。異常時巡視というものもあり、地震や豪雨などの災害時や気象異常時には異常巡視を実施致します。道路管理には色々な情報収集提供装置というものがありまして、その装置の監視、

操作によって情報を収集し迅速に対応に努力しています。情報収集には雨量計、凍結検知、地震計、道路冠水などのセンサーデータや、道路のCCTV画像などを見て道路の状況や気象の状況、道路利用者や警察からの通報、連絡等により道路情報管理室などで情報蓄積、情報の共有し、関係機関や現場への情報提供及び、道路情報板、路側放送等で道路利用者へ情報を提供しています。

近年、降雨の変化が大きくなっており梅雨、台風の時期に豪雨災害が発生しやすくなってきており、昨年も台風19号等が発生し、大きな豪雨災害が発生しています。50mm/h以上の短時間強雨の発生回数が近年約1.3倍以上に増加し、特に災害の恐れがある箇所については、雨量による事前通行規制区間を設置し、道路の通行を規制する事で道路交通の安全を確保するよう努めています。雨量による事前通行規制区間は、全国では直轄国道で実延長2万2千kmにおいて約千km、都道府県管理国道の3万2千kmにおいて4千5百kmの区間を持っています。ちなみに留萌管内では、小平の花岡地区と239号線の霧立峠が事前通行規制区間に指定されています。雪寒対策として年降雪量は概ね横ばいですが、近年雪の少ない関東や西日本では、累積降雪量は平均の約2倍に達し、この6年で積雪が観測史上最高を更新する地点が3割あり、ゲリラ豪雪が全国局所的に発生しています。防雪、凍雪害を防ぐため、雪崩防止対策や融雪装置の整備を実施。立往生の原因となる夏タイヤやチェーン未装備車両による通行を防止するために事前の啓発活動や、立ち往生車両の移動を円滑にするために関係機関と連携した訓練を実施しています。今冬の取り組みとして近年北海道内においても大雪や暴風雪など、積雪寒冷地特有の冬季災害が激甚化しており、冬期災害に備えた安全で円滑な道路交通の確保に向けて、効率的な除排雪体制の確保や、道路情報板やSNSやメール配信サービスなどで情報提供の充実を図り、これまでの暴風雪を踏まえた立往生対策への取り組みを進めています。また、一般道において吹雪時の映像鮮明化技術の実証実験も



行っています。

近年の冬期事象通行止め発生状況について、北海道でも近年大雪や暴風雪などの自然災害が激甚化してきており、北海道内の国道においても、吹雪や雪崩、路面凍結、またそれらの恐れにより通行止めが発生しています。国道の冬期の交通止め回数を見ても、地吹雪雪崩が多く、近年の暴風雪による影響として平成30年3月1日から2日にかけての暴風雪と大雪では低気圧の接近通過の影響により、沿岸部では全道的に雪を伴って非常に強い風を観測し、暴風雪や大時化となり、積雪が平年より多い状況の中、太平洋側を中心に総降雪量が50cm以上の大雪となった3月1日～4日にかけて、スタック車両や故障車両等を原因とする立往生車が発生し、26路線45区間、944kmの国道が通行止めとなりました。

効率的な除排雪体制の確保についてですが、北海道内の直轄国道除排雪延長は6789kmありまして、150箇所の除雪基地と1065台の除雪機械により、除雪体制の確保を図っています。留萌管内では除雪延長823kmで、除雪基地が8箇所除雪機械が54台配置されています。除雪作業には新設除雪として、気象状況、交通状況等を勘案し、道路交通に支障をきたす恐れがある場合に実施する事になっています。歩道除雪、歩行者の通行に支障がある場合に実施。運搬排泄は堆積した雪により車道の幅員の確保が困難となり、引き続き降雪の増加が予想される場合等、道路交通に支障をきたす場合に実施。凍結材散布。路面整正、路面の平坦性を確保する必要がある場合に実施。拡幅除雪、堆積した雪により必要な車道復員及び堆雪幅が確保されておらず、

## 第29回 2月12日(水) 天候/曇

---

道路交通に支障をきたす恐れのある場合、又は新設除雪の実施が困難な場合に実施されます。

次に情報提供充実について北海道地区道路情報としてホームページによる全道の国道と道道の交通情報、異常気象時の通行規制、通行止めの情報、気象情報の提供、国道のカメラ画像の提供などをしています。また、携帯でメールアドレスをあらかじめ登録していただいた方に国道及び北海道開発局が管理する高速道路の通行止め情報を電子メールでお知らせするサービスも行っています。国道の通行止め情報や災害情報などをツイッターで情報提供もしています。外国の方にも分かりやすい情報提供として、道路情報板、北海道道路情報ウェブページを英語表記して、冬道ドライブの心構えの英語版パンフレットを作成、レンタカー会社に配布し、外国人にもわかりやすい情報の提供も行っています。暴風雪を踏まえた立往生対策についてですが、数年に1度の猛吹雪や、記録的な大雪などの悪天候が予想されるとき、北海道開発局は北海道運輸局や札幌管区气象台と連携し、注意喚起を目的として、最新の気象情報や立往生時の注意点を緊急的に報道発表をします。大荒れ予想やスタック発生予測、スタック交通事故の発生時、スタック車両の救出作業時の救出情報の発信、待機車両への声掛け及び安否確認を順次行っています。SNS、ラジオ放送による情報提供は、日本道路交通情報センターと連携しています。

次に、除雪現場の省力化に向けた取り組み取り組みとして、平成28年度に除雪現場の省力化に向けたプラットフォーム(i-Snow)を発足、産学官民が幅広く連携して取り組みを実施しました。省力化のイメージとしては熟練オペレータによる作業装置操作等+助手による安全確認、2名乗車体制が準天頂衛生「みちびき」によるガイダンスシステム+周辺探知技術による安全対策等による1名乗車体制になるという事です。昨年度行ってきた事ですが、冬期間通行止めとなる知床峠で、準天頂衛生「みちびき」と高精度3Dマップを活用した除雪車の運転支援」や投雪装置自動化等の実証実験を実施しま

した。今冬の取り組みとして、引き続き知床峠において、より高度な投雪装置の自動化や安全対策技術の実証実験及び、一般道において吹雪時の映像鮮明化時術の実証実験は実施致します。

以上、簡単に北海道開発局の取り組みについてお話をさせていただきましたが、道路を利用される皆様方にご迷惑をお掛けする場合がございますので、その辺はどうぞご理解いただきたいと思います。簡単ですが私の方からの話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございます。